

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

平成 22 年度病害虫発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、第 2 号を発表しましたので、送付します。

## 特 殊 報

平成 22 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 22 年 9 月 16 日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 イネ南方黒すじ萎縮病（仮称）  
病原ウイルス Southern rice black-streaked dwarf virus (SRBSDV, 仮称)
- 2 発生作物 水稻
- 3 発生の経緯
  - (1) 2010 年 8 月、県内の水稻で株が萎縮する症状が確認された。
  - (2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターに同定を依頼したところ、国内で未発生の SRBSDV（仮称）によるイネ南方黒すじ萎縮病（仮称）であることが確認された。
  - (3) 現在までに、飼料用水稻および主食用水稻で発病を確認している。
  - (4) 本病害は、2001 年にベトナム北部および中国南部で発生が初めて確認されたウイルス病である。
- 4 病徴  
生育初期に感染すると株が萎縮し（図 1）、その程度は感染時期が早いほど激しい。葉は葉身および葉先がねじれ、激しい場合はらせん状となる（図 2）。また、葉色は濃くなり、葉脈が隆起する症状も認められる（図 3）。出穂期以降は、茎や葉鞘に黒すじが発生する。穂は矮小化し、不稔や籾の褐変、上位節からの異常な分枝、止葉の小葉化などの症状が見られる（図 4）。
- 5 伝染方法
  - (1) 本ウイルスは、セジロウンカ（図 5）によって媒介されることが確認されている。
  - (2) 本ウイルスは、レオウイルスに分類される。既知のレオウイルスは媒介虫によって永続的に媒介されるが、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染しないことが知られている。
- 6 感染植物  
水稻の他、トウモロコシ、イヌビエ、ミズガヤツリで感染が確認されている。

## 7 防除対策

- (1) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、箱施薬剤を処理するなど、生育初期からセジロウンカを防除する。防除薬剤は、セジロウンカに対して効果の高いものを選択する。
- (2) 飼料用水稲では、用途に応じて「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（稲発酵粗飼料推進協議会等編）もしくは「多収米栽培マニュアル」（農林水産省編）に沿って防除を行う。

熊本県病害虫防除所 (熊本県農業研究センター生産環境研究所 病害虫研究室予察指導係) 担当：東、山口 TEL 096-248-6490
--



図1 萎縮症状



図2 葉先のねじれ症状



図3 葉脈の隆起症状



図5 セジロウンカ



図4 穂の矮小化、止葉の小葉化